

## 平成26年度下半期指定管理者管理運営状況シート

### ●施設の概要

施設名	岐阜市健康ふれあい農園	所管課	農林園芸課
所在地	岐阜市安食字竹田799番地1		
指定管理者名	ぎふ農業協同組合		
指定期間	平成25年4月1日～平成29年3月31日		
選定方法	<input checked="" type="checkbox"/> 公募 <input type="checkbox"/> 非公募		
料金制	<input checked="" type="checkbox"/> 使用料 <input type="checkbox"/> 利用料金 <input type="checkbox"/> 料金徴収なし		
指定管理委託料(年額)	8,756,228円		
施設の設置目的	農作業体験を通して、自らの健康増進、家族とのふれあい及び農業に関する理解を深める		
施設概要	貸付農地、利用農地、附帯施設(管理事務所、農機具倉庫、物置、便所、堆肥置場、洗い場、園路、休養施設、駐車場、農機具類及び農具類)		

### ●利用状況

		H26 下半期	H26 上半期	H25 下半期	H25 上半期	H24 下半期
貸付農地利用区画数		215	213	226	216	214
利用状況	一般用区画A(30㎡) 利用率	90.1%	89.3%	94.7%	94.7%	95.4%
	一般用区画B(40㎡) 利用率	70.3%	70.3%	78.1%	76.6%	78.1%
	一般用区画C(50㎡) 利用率	60.7%	59.0%	60.7%	45.9%	41.0%
	身体障害者用区画E(2㎡) 利用率	100%	100%	100%	100%	93.3%
	収穫体験利用組数(組)	1,160	362	1,152	387	1,240
	収穫体験利用人数(人)	3,541	1,116	3,754	1,192	4,216

### ●業務の履行確認

区分	確認事項	履行状況
利用者サービス	①供用日・供用時間の遵守 ②適切な人員配置 ③広報の方策 ④苦情への対応(雑草、有害鳥獣等) ⑤栽培指導 ⑥耕耘機の無料貸出し	①業務日誌より、午前8時出勤、午後5時退社の確認 ②申請受付1名、農園管理3名(交代制)配置 ③JAのHPに掲載 ※掲載ページへのリンクをトップ画面下の場所に分かりやすく設定 ④・随時除草作業実施 ・農園北側の山沿いに設置したイノシシ防除柵を南東に延長(H26.10～) ⑤月1～2回の巡回指導、年2回の栽培講習会実施 ⑥下半期(10月～3月):67件
自主事業・提案事業	①貸付区画利用者からの依頼による有料耕起作業	①1,200円/10㎡、1,400円/20㎡、1,600円/30㎡ 下半期(10月～3月):5件の依頼を受け実施
施設管理	①日常・定期清掃業務 ②警備業務 ③受水槽、浄化槽点検 ④利用農地栽培管理 ⑤作物残渣処理 ⑥貸付農地の適正管理指導 ⑦除草作業	①日常清掃(トイレ、管理事務所、倉庫/毎日)実施 ②定期巡回(午前9時頃)実施 ③委託業者による点検(年1回) ④作物11種の栽培管理、気象変動に対応した作業変更の実施 ⑤水分排除後、利用農地輪作予定区画にすき込み、土づくりに活用(チップパーにより残渣を粉砕) ⑥未利用貸付区画の緑肥栽培実施、巡回時に随時管理指導実施 ⑦側溝のり面、駐車場等、随時除草作業確認
施設修繕	・指定管理者のノウハウを生かした修繕・整備	・農業器具等の修繕を自己の営農組織に依頼することで、経費を縮減した。
危機管理・法令遵守	①個人情報の保護 ②非常時の対応策 ③関係法令の遵守	①個人情報保護方針を作成し、適正に取り扱っている。 ②緊急時の対応マニュアルを整備し、台風被害対策を行うなど、適切な危機管理対策を実施した。 ③関係法令を遵守している。

●利用者評価

利用者アンケートの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貸付区画利用者146人を対象に、H27.2に実施。</li> <li>・アンケート質問項目:「年齢」、「住所」、「栽培の経験年数」、「利用頻度」、「管理人の栽培指導等の対応(回数・内容)」、「現在利用中の区画と面積について」、「空いているC区画の分割利用について」、「駐車場の配置」、「充実してほしい支援内容」、「堆肥の無料配布について」、「耕耘機の無料レンタルについて」、「辞退理由」、「ご意見、感想」</li> </ul>
利用者アンケートの実施結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回答数 96人(回答率 65.8%)</li> <li>・「年齢」 10～20代:0% 30代:2% 40代:5% 50代:11% 60代:41% 70代:33% 80代:4% 他</li> <li>・「住所」 長良:9人 早田:8人 方県、黒野、京町:各6人 本郷、岩野田:各5人 鷺山、常磐、島、加納、本巣市:各4人</li> <li>・「栽培経験年数」 1年:2人 2年:13人 3年:5人 4年:4人 5年:8人 6年:5人 7年:3人 8年:5人 9年:2人 10年～19年:37人 20年以上:5人 他</li> <li>・「利用頻度」 ほぼ毎日3% 週に数回32% 週に1回程度48% 月に数回16% その他1%</li> <li>・「管理人の栽培指導等の対応について」 回数:もっと指導してほしい15% ちょうどよい78% 指導してほしくない6% 大変不満1% 内容:大変満足6% 満足79% やや不満12% 大変不満3% その他0%</li> <li>・「現在利用中の区画と面積」 30㎡:65% 40㎡:22% 50㎡:11% 2㎡:2% ちょうどよい:75% やや広い:2% やや狭い:23% その他:0%</li> <li>・「空いているC区画の分割利用について」 利用してみたい6% 考えていない84% 分割の仕方による10% その他0%</li> <li>・「現在の駐車場の配置」 大変満足7% 満足74% 不満16% 大変不満3% その他0%</li> <li>・「充実してほしい支援内容」 簡易物置の設置12% 土質の改善56% 肥料や苗等の販売27% その他5%</li> <li>・「堆肥の無料配布」 大変満足35% 満足57% 不満6% 大変不満2% その他0%</li> <li>・「耕耘機の無料レンタル」 大変満足30% 満足58% 不満7% 大変満足5% その他0%</li> <li>・「辞退理由(辞退予定者のみ)」 時間に余裕がない12% 体調が悪い19% 使用料が高い37% 立地条件13% 他の市民農園を借りる0% その他19%</li> <li>・主な意見・要望: 使用料が高い、土壌の改良 等</li> </ul>
利用者からの要望・苦情と対応・改善	<p>アンケートの意見・結果に基づいて、指定管理者側で対応可能なものについては対応に努めてもらっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・貸付区画の土質が悪い ⇒ 堆肥の無料配布や耕耘機の無料貸出し等、掲示物等による更なる周知を含め、引き続き対応策を実施する。</li> <li>・管理人の所在を教えてください ⇒ 管理人の居場所が利用者に分かるよう、掲示物等にて周知している。</li> <li>・イノシシ対策をしてほしい ⇒ 農園北側の山沿いに設置したイノシシ防除柵を南東に延長(H26.10～) 農園北側山中にて、一般狩猟により、イノシシ3頭を捕獲(H26.12～H27.1)</li> <li>・園内の路上駐車を注意してほしい ⇒ 原則、土日祝日は路上駐車禁止の旨を掲示物にて周知し、バリアードを適宜設置している。</li> </ul>

●指定管理者の選定基準に基づく評価

区分	選定基準	評価項目	具体的な業務要求水準	評価		
				指定管理者	所管課	評価委員会
公平性 透明性	住民の平等利用が確保されること	平等利用を確保するための体制、モニタリングなど	利用申込みが区画数を越えた場合の公平な利用者決定方法を講じるか。	A	A	A
		情報公開、広報の方策	利用者募集PRを実施しているか。	A	A	A
		その他指定管理者の提案によるもの	提案項目が効率的に実施されているか。	-	-	-
	区分評価					A
効果性	事業計画書の内容が、対象施設の効用(設置目的)を最大限発揮するものであること	既存業務の改善、工夫又は新規の魅力的な提案の有無、内容	気象状況に応じた栽培方法を選択しているか。	A	A	A
		利用者ニーズ、苦情などの把握方法及び対応方策など	利用者からの意見を聴取しているか。	A	A	A
		利用者に対するサービス向上の方策(窓口対応、プロモーション、設備の整備など)	利用者からの意見について、検討・対応策を講じているか。	A	B	B
		利用促進、利用者増の方策	栽培指導を実施しているか。	A	A	A
		サービスの質を確保するための体制、モニタリングなど	質確保のために体制を整備しているか。	A	A	A
		施設の効用(設置目的)を最大限発揮できるスタッフの配置	専門の栽培指導員を配置しているか。	A	A	A
		その他指定管理者の提案によるもの	提案項目が効率的に実施されているか。	-	-	-
区分評価					A	

区分	選定基準	評価項目	具体的な業務要求水準	評価		
				指定管理者	所管課	評価委員会
効率性	事業計画書の内容が、管理経費の縮減が図られるものであること	指定管理経費の妥当性(サービスとコストのバランスなど)	利用者へのサービス低下を招くことなく、コスト縮減に努めているか。	A	A	A
		収支計画の妥当性	計画に基づき、遂行されているか。	A	A	A
		管理経費縮減の具体的方策	具体的な経費の削減の方策を掲げ、努力しているか。	A	A	A
		スタッフ配置の妥当性(無理はないか)	職員の担当、勤務時間を工夫し、より効率よく業務が出来るよう配置しているか。	A	A	A
		利用料金を徴収する施設の場合、収入の増加を図るための方策	利用者増につながるイベントを実施しているか。	A	A	A
		その他指定管理者の提案によるもの	提案項目が効率的に実施されているか。	-	-	-
		区分評価				
安定性 安全性	事業計画書に沿った管理を安定して行う物的能力、人的能力を有していること	経営基盤の安定性	経営は安定しているか。	A	A	A
		組織及びスタッフ(採用予定者も含む)の経歴、保有する資格、ノウハウ、専門知識等	作物栽培経験、農業機械操作技術を有する職員を配置しているか。	A	A	A
		スタッフ(採用予定者も含む)の管理、監督体制	スタッフ間の連携がとれた体制が整備されているか。	A	A	A
		スタッフ(採用予定者も含む)の人材育成の方策	人材育成の方策は策定されているか。	A	A	A
		リスクへの対応方策(防止策、非常時の対応マニュアルなど)	自然災害、防犯、事故等の緊急時における危機管理のための方策が確立されているか。	A	A	A
		リスクへの対応能力(資金力、損害賠償能力など)	資金力は十分備わっているか。	A	A	A
		その他指定管理者の提案によるもの	提案項目が効率的に実施されているか。	-	-	-
区分評価					A	
貢献性	事業計画書の内容が、岐阜市あるいは施設がある特定の地域(以下「地元」という。)の振興、活性化などに貢献できるものであること	地元の法人その他の団体の育成(一部業務の再委託先)	地元法人、団体の育成に貢献しているか。	A	A	A
		地元の住民、高齢者、障害者等の雇用	地元農家の雇用に貢献しているか。	A	A	A
		地元での資材等の調達	地元で資材を調達しているか。	A	A	A
		地元での社会活動等への参加	地元からの要請があった場合にに応じられるか。	A	A	A
		その他地元への貢献に関すること	地元開催のイベントに協力しているか。	A	A	A
		その他指定管理者の提案によるもの	提案項目が効率的に実施されているか。	-	-	-
		区分評価				

●指定管理者の取組みに対する自己評価(良否、課題と解決策など)

<p>今期の取組みに対する評価</p>	<p>・本年は天候の都合により作物の品質が安定しなかったが、配布数量や種類を増やす等、出来る限り対応したことで、アンケートでは概ね良い評価を得ることができた。</p>
<p>前回までの意見を踏まえた取組み状況</p>	<p>・体験区画及び貸付区画において、積極的に堆肥を導入し、土壌改善に努めた。                  ・H26.11末に感謝祭(焼き芋の無料配布)を行い農園利用者より好評を得ることができ、若年層へのPRに繋がった。</p>
<p>今後の取組み</p>	<p>・チラシやポスター、JAが発行する機関誌「ふれあいねっと」等を活用し、積極的に施設のPRを行う。                  ・体験区画において、緑肥作物の作付を行い、土壌改善に努める。</p>

●所管課の意見

<p>・農園のPRのため、H26.11末に感謝祭(焼き芋の無料配布)を実施し、農園利用者に喜んでいただけたことは評価する。来年度も感謝祭等のイベントを実施するよう求める。                  ・イノシシ防除対策について、H26.10に防除柵を南東に延長したことで、昨年度よりもイノシシ被害が大幅に減少したことを評価したい。                  ・アンケート結果等を参考に農園利用者のニーズを把握し、今後もより良い環境づくりに努めてもらいたい。                  ・土壌改良については、堆肥の無料提供や耕耘機の無料貸出し等、引き続き対応をしていただきたい。</p>
---

●指定管理者評価委員会の意見

<p>・土壌改良について、堆肥の無料提供等の対応は評価できる。しかし、土質上抜本的な改善が難しいということに鑑みて、今後の可能性として、例えば子どもたちの教育という観点から、一部を水田として利用するという方法も検討してみてもどうか。また、客土等の利用についても可能性を検討してみてもどうか。                  ・アンケート等を活用し、利用者のニーズを十分に把握することで、より細やかなサービス提供に努めていただき、施設の維持管理についても適切に対応していただきたい。                  ・食農教育児童実践支援事業等の各種イベントを通じて、利用率の向上に努めていることは評価できる。今後とも、利用者が農業への理解をさらに深められるように努力していただきたい。</p>
--